

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 rows: 事業所番号 (0195700059), 法人名 (空知パブリックメンテナンス株式会社), 事業所名 (グループホームほほえみ 1号館), 所在地 (岩見沢市8条西16丁目2番地1), 自己評価作成日 (令和3年10月1日), 評価結果市町村受理日 (令和4年2月16日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は閑静な住宅街にあり、現在近くに小学校の新築工事が始まり緊急時の避難場所が近くになる予定です。又、地域町内会の婦人部会の行事にも参加させていただき地域の一員として交流を深めています。事業所として特に力を入れているところは、利用者は長い人生経験の中で培われた知識や技の「力」を最大限に生かし、本人の思いを尊重して、その人らしい生活をマネジメントするよう心がけ支援している。出来る事はしていただき、出来ない事は介護員がお手伝いしており、利用者さんと共同作業で日々の生活を支援しております。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL, https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou\_detail\_022\_kihon=true&JigyosyoCd=0195700059-00&ServiceCd=320

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 rows: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401), 訪問調査日 (令和3年11月18日)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、市の中心部を走る国道12号線に程近い、閑静な住宅地に立地している。近隣には、JR岩見沢駅や市役所、病院等があり、生活に至便である。運営法人は、他にも市内にグループホームを展開しており、各事業所間の情報共有や内部研修プログラムの充実が図られ、介護職員の観察力等のスキルアップに繋がっている。職員は事業所理念を念頭に、利用者が出来るだけ自力で、今までと変わらない生活が出来るよう、サポート・見守りに注力し、支援している。コロナ禍で制限が多い中、多様な面会方法の検討、外気浴等、出来る事から取り組み、コロナを理由に閉じこもる事のないよう、職員間で検討を重ねている。さらなる地域に開かれた事業所として、活躍が期待される。

iwamizawaeki

Table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 detailing service outcomes and staff performance.

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営推進会議の内容は回覧にして書名し全員が閲覧している。	法人理念の他、職員間で話し合い作成した事業所独自の理念を掲げ、日常的に共有している。主に職員会議の場で、理念への理解を深めており、日々その実践に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在は自粛していて交流は出来ませんが地域の高齢者の相談を受け連携していける様な関係を築いている。	通例では町内会、地域活動に積極的に参加している。自粛傾向の中、地域との交流、事業所の近況の周知等、関係維持について、職員間で協議している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内の方々との交流は現在控えておりますが(コロナ)、継続的な交流をしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在は運営推進会議は密になる為、家族様は抜きで施設内でしております。ヒヤリハットや事故届けも報告し議事録を全家族に送付している。	通例では、管理者を中心に家族、地域代表、行政が参加し、定例で開催している。コロナ禍で制限がある現在も議事録を送付し、意見を聞き取ることで、運営に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議は現在職員での開催ですが、高齢福祉課・包括とは情報をメールなどで交換しサービス向上に努めている。	市、包括支援センターから情報提供や指導を受けている。定例の運営状況報告や、地域高齢者や事業所の状況について、窓口に出向き、情報交換を行っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	講習会や勉強会を行ない全職員が行動の自由を制限しない介護上の工夫を相談しながら行っている。外部講習会参加者による研修内容報告の実施(年4回GHぬくもりとの身体拘束の研修会実施)	身体拘束廃止委員会を設置し、指針を基に3か月に1度開催、内容について全職員に周知している。利用者の現状の確認と不適切なケアについて、具体的な事例を職員間で協議し、繰り返す事のないよう努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	講習会の参加(外部)出来ない為、月1回のミーティング時や常に介護上での対応等を話し合っている。GHぬくもりと合同で身体拘束防止委員会と研修会を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ケアマネ、管理者、スタッフが順番に研修を受けている。現在対象者は居ませんが、今後対象者が居れば受入いく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、ご家族本人と面談し口頭及び文章で説明している。分からない所があれば理解できるように説明している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様には月々の介護・介助の中で傾聴している。ご家族には2カ月に1度の「こぼれび新聞」で施設全体の事をお知らせし、毎月個人への写真付きのお手紙を送付している。苦情箱も設けている。	写真を添えた個別のお便りや電話で、利用者の日常の様子を伝えている。事業所のサービスや職員の介護姿勢等について寄せられた意見を検証し、運営推進会議の場で公表しながら、運営に活かしている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のミーティング時に職員に意見や提案をあげてもらい、ケアに反映している。	主に月例のミーティングの場で、職員との意見交換や提案を受け、運営に活かしている。また、施設長、管理者が定期的に面談を行い、個別の意向、提案の聞き取りを行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	労働基準法によって労働条件を整えている。また管理者や職員の声に耳を傾け働く意欲を持ち、気分転換が図られるよう休憩時間を設けている。資格取得を支援し、向上心を持って働けるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は現在控えておりますが、岩見沢市内のGHとの情報交換でイロイロと話し合い報告を全職員が学べるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の他のグループホームの方々と、コロナの情報交換や対策などをメールや電話などで話し合いをしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所申込時に来れる方は本人も同行して頂き、要望や困っている事を傾聴し信頼関係に努める様にする。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面接の時に今迄の生活歴や生活状況を聞き、不安のない様に要望に添えるようにつとめる。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所時には施設内見学して頂き面談しご家族が望んでいる事をお聞きし介護計画をかんがえる。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の訴えに耳を傾け、一緒に生活する事で分かち合い協力しあいながら生活出来る様に努める。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の日頃の様子をお便りや訪問時に伝えていきます。家族と職員が情報の共有を図り両者様を支えるようにしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在、知人や友人等は以前に比べ来訪されていない、キリスト教の方も来訪されているが、会報のみ渡されている。	通例では、馴染み、希望する場所への訪問は、職員の同行や家族の協力を得て、支援している。コロナ禍の現在は電話連絡の頻度を上げ、お便りの内容充実に注力している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常生活の様子を毎月のお便りや訪問時プラン会議前につたえている。情報の共有を図れる様に協力している。家族と職員が協力し合い、本人を支えられるような支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設病院に転居する際は当ホームでの生活状況や介護添書で詳しく資料にして伝え退所ごも相談があれば応じている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様の思いを一つ一つ支援し日常生活の中で把握できる様にしている。本人や家族訪問時に聞いている。	会話や表情から思いや希望を把握し、職員間で検討している。家族からも情報を得て、入居時の基本情報に加え、定期的にあセスメントを行い、情報共有している。	本人から最後の時間をどこで過ごしたいのか等の最終段階に関して、具体的な思いを聞き取り・記録し、より本人本位の生活となるよう期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前に本人家族から生活歴を確認しています。入居後の支援に役立てています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	当日の体調や気分によって本人の意思をできるだけ尊重し、したい事・できる事をして頂く。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者や家族の要望を介護計画の見直し時、来訪時に聴取しミーティング時に個々に合った計画を話し合い、利用者本位の生活になる様に努めている。	職員相互で日々のモニタリング結果を検証し、本人・家族の要望や医師・看護師の意見を考慮しながら、介護計画を作成している。また、随時見直しを行い、個々に合った計画となるよう努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	特変があれば、細かく個人記録に記入し申し送りノートや引継ぎでスタッフ全員に伝える様にしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の状況に応じて介護タクシーを利用して病院に受診しています。その他急な時があればスタッフが車で送迎しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ホームでの行事の時は、地域のボランティアの方にお願ひし余興を楽しんで頂き、町内会の方ご家族にも参加して頂いています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者は以前からのかかりつけ医を主治医としている。通院には家族又は職員が同行している。週1回訪問看護師が来訪し利用者の日々の体調管理を看ている。緊急時には協力病院への搬送の体制になっている。	本人、家族の要望を伺い、かかりつけ医とのつながりを大切に支援するよう努めている。また、協力医療機関による訪問看護の結果については、お便りや電話で家族に伝えている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日のバイタル測定や体調の変化があれば見逃さず、訪問看護師に報告し必要時、かかり付医指定病院に受診して頂いている。(現在訪問受診を受けている。)		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを	入院時には介護添書、支援経過を文書で提供し、ご家族や病院とも情報交換し相談している。入院時も面会に行き状況を確認している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時の面談で利用者・家族に重度化の指針を説明し同意を得ていますが、最期までこの生活を望む方には家族とも話し合い出来る限りの介護を行う事になっている。	契約時に事業所の方針を説明し、状態変化に応じて協力医療機関、家族と終末期を支えるための話し合いを行っている。職員は看取りケアについて定期的に学び、本人と家族の希望に寄り添うよう努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ケースバイケースで管理者及びケアマネに連絡し判断を仰ぎ対応し救急車を呼ぶ。全員が対応できるように周知している。月1回のミーティングで必要時勉強会を行っている。AEDも設置しており救命救急講習も受けている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	現在は自主避難訓練ですが、継続的な避難誘導訓練を行い利用者様の安全に努めている。	マニュアルを基に、定例で火災・自然災害を想定した避難訓練を実施している。地域とは、主に運営推進会議の場で、相互の災害時の対応や協力体制を検討している。あらゆる災害を想定しての実践的訓練等、全職員で取り組んでいる。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の人格を尊重し自尊心を傷付けない様に言葉かけに気お付けています。面会記録も箱に入れ管理しています。(訪問に来た家族のプライバシー)	職員は接遇や言葉使い、望ましいケアについてミーティングの場で検討している。不適切と思われる対応については、都度、その場で改善に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	それぞれの利用者様の要望希望に耳を傾け実現できる事は叶うように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れは有るが個人のペースに合わせて無理強いせず、その人に合った支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お化粧する方はして頂き、髪の流れがある方は直したり、ヒゲを剃ったり清潔でいられるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の下ごしらえ、味見盛り付け等利用者様と一緒にやる事で食事を楽しめる様にしている。	季節感、盛り付けに配慮し、彩りあるものとなっている。調理の過程や下膳、テーブル拭き等、体調や体力に合わせ、お手伝いをお願いして、食事が楽しみある時間となるよう努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分や食事は記録し水分が少ない方には促しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は洗面所に行っていただき利用者様に合わせて声掛け見守り介助をしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し排泄パターンを把握しトイレ誘導をして排泄できるようにしている。	排泄チェック表を用い、個々の排泄パターンや習慣を把握している。支援の必要な利用者には、本人のリズムに合わせて誘導し、トイレでの排泄を行なっている。衛生用品も、本人の状態に合わせて随時検討している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄パターンを記録し便秘の方には牛乳やヨーグルト等を提供し水分を促す毎朝ラジオ体操、手足の運動歩行運動を行ない便秘対策に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に合わせた支援をしている	週2回の入浴を実施し利用者様の体調管理や気分に合わせて行っている。気持ちよく入浴できるように入浴剤や温度等に気をつけている。	ほぼ毎日お湯はりを行い、週に2回以上入浴出来るよう努めている。拒否がある場合、無理強いすることなく、時間帯や担当者を調整し、会話しながら楽しみある時となるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々のリズムに合わせて体調を見てレクなど参加して頂いています。眠れない方には話を傾聴して安眠出来る様にしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員が利用者の服薬を把握できる様ファイルがあり、確認しながらしています。服薬はスタッフ2人で再確認しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様に合ったレクレーションをして頂き、夏は散歩や外出外食しています。カラオケができる方はしていただいています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外食が密になる為、食事には行けないがデリバリーを利用して食を楽しんだり、夏場はホームでの焼肉や花火等を楽しめるようにしている。	通例では、全体行事の他、個別に声がけし、日課として出歩くように努め、近隣へ買い物に出かけている。コロナ禍においても、閉じこもらない介護を検討し、感染防止に留意しながら、外気浴などを行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を使う事はないのですが、本人が不安がある方は、ご家族と相談して見守っています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は本人が希望すれば、いつでも掛けられる様になっております。手紙も要望があれば支援しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	四季に合わせた物を利用者様と一緒に飾り付を行なっています。フローからは花や作物が育っているのがながめられます。	リビングなど共用スペースは、温・湿度が適切に保たれている。職員と利用者が共同で作った季節感ある作品が装飾され、明るく、清潔で安全な環境作りに留意し、落ち着いた生活が出来るよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間にはソファがあり、利用者様が集まりお話しされたりDVDを観たり楽しまれています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様の状態に応じた部屋の工夫をし自宅で使い慣れた物を持ち込安心して生活できるようにしています。	居室には、自宅から使い慣れた家具や生活雑貨が持ち込まれている。状態の変化が見られた場合は、本人や家族と相談して整理・模様替えを行い、安全に安心して過ごせる環境を整えている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーでクッションフロアで手摺を設置し安全に考慮しトイレも分かる様に張り紙をし照明も適度な明るさにし安心して過ごせる様にしている。		